

2022年8月31日発行

今回の紙面から（ページと内容）

会長挨拶	1
第40回大会のお知らせ	2
第16回国際春季フォーラムのご案内	3
終身会員の登録申請について	3
理事会より	4
編集委員会より	5
大会運営委員会より	6
広報委員会より	6
学会賞委員会より	6
日本英語学会2021年度会計報告	7
日本英語学会2022年度予算計画	8
言語系学会連合について	10
事務局より	10

会長挨拶

会長 金子 義明

今年こそ新型コロナウイルス感染症の収束を期待しておりましたが、変異株が次々に現れ、現時点では第7波の真っ只中となっております。研究・教育の様々な面でご苦労されていることと思いますが、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

今年度は会長として2年目の年度となります。4月には副会長として西岡宣明先生をお迎えしました。西岡先生は現理事でもいらっしゃいますが、稲田俊明会長時代に事務局長を務められたほか、編集委員長、理事等を歴任され、学会運営に関して極めて豊富な経験と高度な識見をお持ちですので、頼りになる副会長として心強い限りです。理事は5名の方々が退任され、新たに5名の方々をお迎えしました。評議員は、9名の方々が退任され、新たに12名の方々にご就任いただきました。退任された方々には、在任中のご貢献に厚く御礼申し上げます。新任の方々には、学会運営

の諸課題への対応においてご協力のほど、よろしくお願い致します。

冒頭でも述べましたが、今年度も新型コロナ感染症が未収束の状態での学会運営となります。5月に行われました第15回国際春季フォーラム(SF15)はオンライン開催となりましたが、11月開催の日本英語学会第40回大会もオンライン開催となります。

SF15は、5月14日・15日に開催されました。昨年度と同様にオンラインでの開催となりました。オンラインでの開催は2度目となりますが、本間猛大会運営委員長を始めとする大会運営委員の方々、協力校の中京大学の方々、及び事務局メンバーの方々のご尽力により、無事終了いたしました。特に坂本祐太SF15実行委員長と事務局の佐藤陽介SF担当書記の両氏の獅子奮迅のご活躍に厚く御礼申し上げます。海外からの参加者も含めて2日間を通して120名程度の参加者があり、国際フォーラムの名にふさわしい大会となりました。

11月5日・6日に開催されます日本英語学会第40回大会もオンラインでの開催となります。会員の皆様には奮ってご参加いただきますようお願いいたします。

2023年度のSF16と第41回大会の準備状況についてお知らせいたします。SF16は2023年5月13日・14日にオンラインで開催することとなりました。協力校の青山学院大学の皆様には、当初現地開催の予定でお引き受けいただき、会場確保に手を尽くしていただきましたが、様々な要因が重なり必要な教室の確保が困難となったため、現地開催を断念しオンライン開催となりました。第41回大会は東京大学駒場キャンパスを会場とし、11月4日・5日に開催する予定です。現地開催が無事再開されることを祈るばかりです。

ニューズレターやホームページで案内いたしておりますように*English Linguistics*が40巻より年

1号発行となります。年1号化への移行に伴い、投稿規定の改定や、書式・投稿方法の変更があります。会員の皆様にはご不便をおかけしますが、詳細が決定されましたらホームページ等でお知らせいたしますのでよろしくお願いいたします。

7月3日に開催された第84回理事会（オンライン開催）におきまして、「日本英語学会倫理綱領」が承認されました。ご存知のように、様々な研究機関や学術団体で種々のハラスメントを防止するため、倫理綱領を定める動きがあります。日本英語学会ではすでに「研究活動における不正防止のガイドライン」を定めておりますが、健全な学会活動のための行動規範として倫理綱領を定めました。準備が整いましたらホームページで公開いたしますので、目を通していただいてハラスメントの防止にご協力いただきますようお願いいたします。

同理事会で第40回大会の大会参加費をオンライン形式でお支払いいただくことが決定されました。これまで大会参加費は現地でお支払いいただいておりました。オンライン形式の開催では徴収方法がないため、参加を無料としておりましたが、第40回大会ではオンライン形式でお支払いいただくこととなりました。現地開催が再開された場合、現地での徴収形式を併用すべきか等の課題もありますので、今回のオンラインでの徴収形式の結果を踏まえて、次年度以降の大会参加費の徴収のあり方を検討してまいります。

今年度もやっかいな不確定要因を抱えての学会運営になりますが、事務局としましては、会員の皆様の研究発表の場の確保を最優先に、学会運営にあたって行きたいと考えておりますので、会員の皆様にはご協力のほど、よろしくお願いいたします。

第40回大会のお知らせ

Zoomによるオンライン開催（2022年11月5日（土）・6日（日））となります。今年度は、2件のワークショップ、19件の研究発表、3件の特別講演と4件のシンポジウムが予定されています。

特別講演の講師と題目は以下の通りです。

- ・ Alec Marantz “Reducing Lexical Categories to Two Syntactic Heads: Implications for Causative Alternations”
- ・ 今井むつみ「言語はなぜ身体的でかつ恣意的なのか—『類像性の輪』仮説」
- ・ 齋藤衛「 θ 規準再考—コピー形成操作とラベル付け理論をふまえて」

シンポジウムの内容は以下の通りです。（[] 内は司会者、() 内には講師（または指定討論者）と題目を記載しています。

- A. 「英語の常識・世界の言語の非常識：英語学の知見が個別言語の研究に与える正の影響と負の影響」[大谷直輝]（中川裕「コイサン諸語のクリック子音の音韻分析：SPEと単一音素分析の系譜」、藤縄康弘「完了時制 vs. 過去時制—ドイツ語研究から省みる」、後藤雄介・宮内拓也・匹田剛「ロシア語においてDPという機能範疇を設定する必要性」、野元裕樹「何を受動文と呼ぶか・呼ばないか?」、長屋尚典「英語と世界の言語の与格交替」
- B. 「英語史における主語と節構造の統語変化」[田中智之]（小池晃次「主語・（助）動詞倒置の史的变化」、縄田裕幸「節の結合と縮約—英語関係節の発達から」、田中智之「非定形節における動詞移動の出現と消失」、家入葉子「英語の補文構造—その史的变化の道筋」
- C. “Tense: Comparison between Japanese and English” [Sumiyo Nishiguchi] (Toshiyuki Ogihara and Shane Steinert-Threlkeld “Extensional vs. Intensional Approaches to the Semantics of Non-veridical Before,” Naoko Komoto “Some Evidential and Epistemic Markers, Past Tense Morpheme, and Perspective Shift,” Sumiyo Nishiguchi “Surprise Past and Modal Subordination,” Atsuko Nishiyama “Granularity of Now in English and Japanese” Vera Hohaus “Embedded Tenses in English: The View from Processing”

D. 『『見えない形態素』をめぐる音韻現象：その理論分析モデルと英語音韻論・形態論への意味合い』[田中伸一]（西村康平「日本語本語の重複複合語における形態音韻バリエーションについて」、Maelys Salangre「Realize-Morpheme はItem and Arrangementを救えるのか - 日本語の連濁と母音交替から見た英語不規則動詞の過去形」、黄竹佑「複合語アクセントにおける見えない形態素と理論的分析」、田中伸一「広東語の変音現象の無秩序な歴史変化：3つの接辞付加法による統一の説明」]

本大会の詳しいスケジュールとプログラムについては、10月下旬に学会HP (<http://elsj.jp/meeting/>) に掲載予定の「オンライン用のスケジュール・プログラム」、「発表要旨」ならびに「ワークショップ・プログラム」をご覧ください。

◇ 大会の受付について

今年度の第40回大会より、オンライン参加登録システムを導入します。それに伴い、参加者には大会参加費を納入して頂きます。登録に関する詳細は、9月中旬に学会HPに掲載予定の「オンライン参加登録について」をご覧ください。

◇ 総会について

5日(土)の午後にオンラインで開催予定です。詳しくは、10月下旬に学会HPに掲載予定の「オンライン用のスケジュール・プログラム」をご覧ください。

◇ 懇親会について

オンライン開催のため、懇親会は行いません。

◇ 大会優秀発表賞について

今年度も、大会優秀発表賞の審査が行われます。これは事前に審査希望を申請した研究発表を審査して表彰するものです。大会終了後に審査結果をまとめ、ウェブサイトおよびニューズレターで受賞者を発表します。

◇ 証明書等の発行について

今年度は、オンライン開催のため、大会出席の証明書等は発行いたしません。

◇ 「親と子の部屋」について

オンライン開催のため、今年度の「親と子の部屋」の設置は行いません。

◇ 電子版の*Conference Handbook*について

電子版のみの作成となります。大会の1週間ほど前から11月末日までの間、学会ウェブサイトからダウンロードできるようにする予定です。

なお、データ保護の観点から、掲載期間が終わるとCHは学会ウェブサイトから削除されますので、お手元に残したい場合は、必ず掲載期間内にダウンロードしていただきますよう、お願いします。

第16回国際春季フォーラムのご案内

第16回国際春季フォーラムは次の通り開催される予定です。

2023年5月13日(土)・14日(日)

Zoomによるオンライン開催

また、第15回国際春季フォーラムより発表応募についてはEasyChairを導入しております。この変更に伴い、第16回国際春季フォーラムへの研究発表とワークショップの応募についても、応募者自身がEasyChairに登録する必要があります。詳しい応募方法につきましては、学会HP (http://elsj.jp/sf_top/) をご覧ください。

終身会員の登録申請について

終身会員は、満56歳になった年度から10年間、会費を全納した会員を有資格者とし、所定の申請書を提出し、終身会費3万円を支払うことで認められます。終身会員の方には、EL、ニューズレターなどが送付されるほか、秋の大会および国際春季フォーラムの懇親会に無料ご参加いただけます。

終身会員に関する規定等については、学会ホームページのトップページの「入会申し込み」から「終身会員登録手続きについて」という項目をご覧ください。登録申し込みは、4月1日から4月25日です。

理事会より

◇ 会計

2022年7月3日に開催されました第84回理事会において、日本英語学会2021年度収支決算書と2022年度予算計画書が承認されました。

収支決算および予算計画の内容については、このニューズレター7ページから10ページに掲載されておりますのでご覧ください。

◇ 役員の異動

副会長（退任）

廣瀬幸生氏が2022年3月31日付けで退任されました。

理事（退任）

岡田禎之氏、金子義明氏、藤田耕司氏、遊佐典昭氏、吉村あき子氏、以上5名の方が2022年3月31日付けで退任されました。

評議員（退任）

伊藤たかね氏、大石正幸氏、椎名美智氏、高橋幸雄氏、津留崎毅氏、廣瀬浩三氏、福井直樹氏、遊佐典昭氏、鷲尾龍一氏、以上9名の方が2022年3月31日付けで退任されました。

監事（退任）

磯野達也氏、都築雅子氏、以上2名の方が2022年3月31日付けで退任されました。

編集委員長（退任）

岡崎正男氏が2021年11月30日付けで退任されました。

大会運営委員長（退任）

漆原朗子氏が2021年12月14日付けで退任されました。

学会賞委員長（退任）

山口治彦氏が2022年3月31日付けで退任されました。

編集委員会担当書記（退任）

今野弘章氏、五十嵐啓太氏、以上2名が2021年9月30日付けで退任されました。

ご退任の皆さま、これまで日本英語学会の運営にご尽力いただきましたことに対し、厚くお礼申し上げます。

副会長（就任）

西岡宣明氏が2022年4月1日付けで就任されました。

顧問（就任）

伊藤たかね氏が2022年4月1日付けで就任されました。

理事（就任）

家入葉子氏、岩田彩志氏、西岡宣明氏、岸本秀樹氏、北原久嗣氏、以上5名の方が2022年4月1日付けで就任されました。

評議員（就任）

内堀朝子氏、漆原朗子氏、遠藤智子氏、大沼仁美氏、小川芳樹氏、小畑美貴氏、北原真冬氏、高橋英也氏、中井延美氏、縄田裕幸氏、増富和浩氏、町田章氏、以上12名の方が2022年4月1日付けで就任されました。

監事（就任）

秋孝道氏、菊田千春氏、以上2名の方が2022年4月1日付けで就任されました。

編集委員長（就任）

岡田禎之氏が2021年9月1日付けで就任されました。

大会運営委員長（就任）

本間猛氏が2021年12月15日付けで就任されました。

学会賞委員長（就任）

遠藤喜雄氏が2022年4月1日付けで就任されました。

◇ 会員数の変動について

現在の会員数は1296名（6月10日現在）です。内訳は、学生会員36名、通常会員1073名（海外会員15名を含む）、維持会員114名、終身会員52名

(顧問9名を含む)、賛助会員15団体です。

編集委員会より

◇ *English Linguistics* 第40巻以降の年1号化の進捗状況と*English Linguistics* 第40巻への応募受付の一時中止について

すでに学会ホームページを通してお知らせしていますとおり、日本英語学会編集委員会では、*EL* 40巻から年1回の刊行(年1号化)の準備が進められ、現在のところ次の点の変更となることが決定しています。

- (1) 投稿部門については、*EL* 40巻から一般の投稿は現行のArticle、Brief Article、Notes and Discussionの3部門からArticleとNotes and Discussionの2部門になります。
- (2) 編集スケジュールについては、上記2部門の投稿締切日は4月1日となります(*EL* 40巻の投稿締切日は2023年4月1日です)。
- (3) 投稿規定の改訂については、書式や投稿方法について変更があります(詳細は9月以降のご案内となる予定です)。

また、これらの変更に伴い、*EL* 40巻への応募受付を一時中止することといたしました。再開時期につきましては改めて学会ホームページにてお知らせいたします。

会員の皆様には大変なご不便をおかけいたしますが、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

◇ 2021年度*EL*論文賞の決定について

EL 38巻に掲載され、1次審査通過論文として選定されたBA 1編(syntax 1)について、6名の最終選考委員により最終審査が行われ、以下の1編が受賞論文として決定しました。

前田雅子(西南学院大学): "Labeling in Inversion Constructions"

◇ *English Linguistics* 第38巻2号(2022年春号)の刊行について

EL 38巻2号(春号)が刊行されました。Article 1編、Notes and Discussion 3編、Review 3編が掲載されています。会員の皆様には刊行が遅れましたこととお詫び申し上げます。

◇ *English Linguistics* 第39巻1号(2022年秋号)の刊行予定について

EL 39巻1号(秋号)は2022年9月刊行予定です。Article 2編、Notes and Discussion 1編、Review 5編が掲載される予定です。

◇ *English Linguistics* 第39巻2号(2023年春号)の応募論文について

2022年4月1日締め切りで投稿された一般論文の総数は11編で、投稿部門と投稿分野の内訳は、Article 5編(Syntax 3, Syntax/Phonology 1, Morphology/Semantics 1)、Brief Article 3編(Syntax 3)、Notes and Discussion 3編(Syntax 2, Pragmatics/Discourse Analysis 1)でした。また、「4ヶ月書き直し」として再投稿された論文は、Article 1編(Syntax)でした。

以下の表は、懲慥によるReview Article 1編およびReview 5編、39巻1号に応募されて「4ヶ月書き直し」と判定され39巻2号に再投稿された論文1編も含めた、39巻2号の審査状況です(2022年7月31日現在)。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	5	0	1	0	4
BA	3	0	1	0	2
N&D	3	0	1	0	2
RA	1	0	0	0	1
Review	5	5	0	0	0
4ヶ月書き直し					
AR	1	1	0	0	0
BA	0	0	0	0	0
合計	18	6	3	0	9

なお、「特別企画2021」の事前審査（2021年12月15日締め切り）には2件の応募があり、うち1件に一括投稿が認められました。当該企画（Brief Article 相当論文4編とIntroduction）は2022年5月31日に一括投稿され、一般論文とは別に現在審査中です。

◇ **English Linguistics 第40巻（2024年春発行）への投稿について**

上述の通り、2024年3月発行予定のEL 40巻の応募締め切りは、2023年4月1日24時（必着）を予定しております。また、投稿規定は改訂される予定ですので、今後学会ホームページでご案内いたします。なお、新しい投稿規定は、2022年秋頃掲載の予定です。応募される方は、書式に関する注意事項とともに通読され、最新版の投稿規定に則って作成し、ネイティブ・チェックを受けた原稿をご投稿くださいますよう、お願い申し上げます。

◇ 「特別企画2022：特集テーマによる一括投稿論文」の公募について

すでに学会ホームページを通してお知らせしていますとおり、編集委員会では、EL 40巻からの1号化に伴い、EL 40巻以降の公募を廃止することといたしました。会員の皆様にはご理解を賜りますようお願い申し上げます。

大会運営委員会より

◇ **第40回大会個人研究発表への応募の審査結果**

個人研究発表には35件の応募があり、審査の結果19件が採用されました。

◇ **第15回国際春季フォーラム報告**

日本英語学会第15回国際春季フォーラムは、2022年5月14日・15日にオンライン形式で開催されました。今年度のフォーラムでは、国内からの3名の研究者と国外からの1名の研究者による招待講演（全体講演）、10件の研究発表、5件のポスター発表が行われました。第15回フォーラムではワークショップは行われませんでした。全体で120名の参加者があり、活発な議論が展開されま

した。今後、さらに国際的なフォーラムとして飛躍・発展することが期待されます。フォーラムの運営を支えてくださった開催協力校である中京大学の土橋善仁先生と大滝宏一先生、坂本祐太実行委員長と大谷直輝実行副委員長をはじめとした大会運営委員の先生方、そして参加された会員の皆様のご協力に対して、心より御礼申し上げます。

広報委員会より

◇ **J-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）でのELオープンアクセス化に向けた作業について**

ELは原則として刊行の2年後にJ-STAGEにて電子ジャーナルとして公開しております。2022年5月までにEnglish Linguistics第35巻第2号まで公開が完了しています。以下のURLをご参照ください。<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/elsj/>

◇ **EL刊行と同時の電子化について**

学会ウェブサイト（www.elsj.jp）に設置されているEnglish Linguistics Onlineに第37巻第2号まで公開が完了しています。なお、ダウンロードは会員に知らされたID・パスワードによって可能です。以下のURLをご参照ください。<http://elsj.jp/english-linguistics-eng/english-linguistics-online/>

学会賞委員会より

◇ **新人賞と学会賞（論文）の応募状況**

2022年度新人賞と学会賞（論文）の応募は4月15日に締め切られました。新人賞と学会賞（論文）への応募はありませんでした。

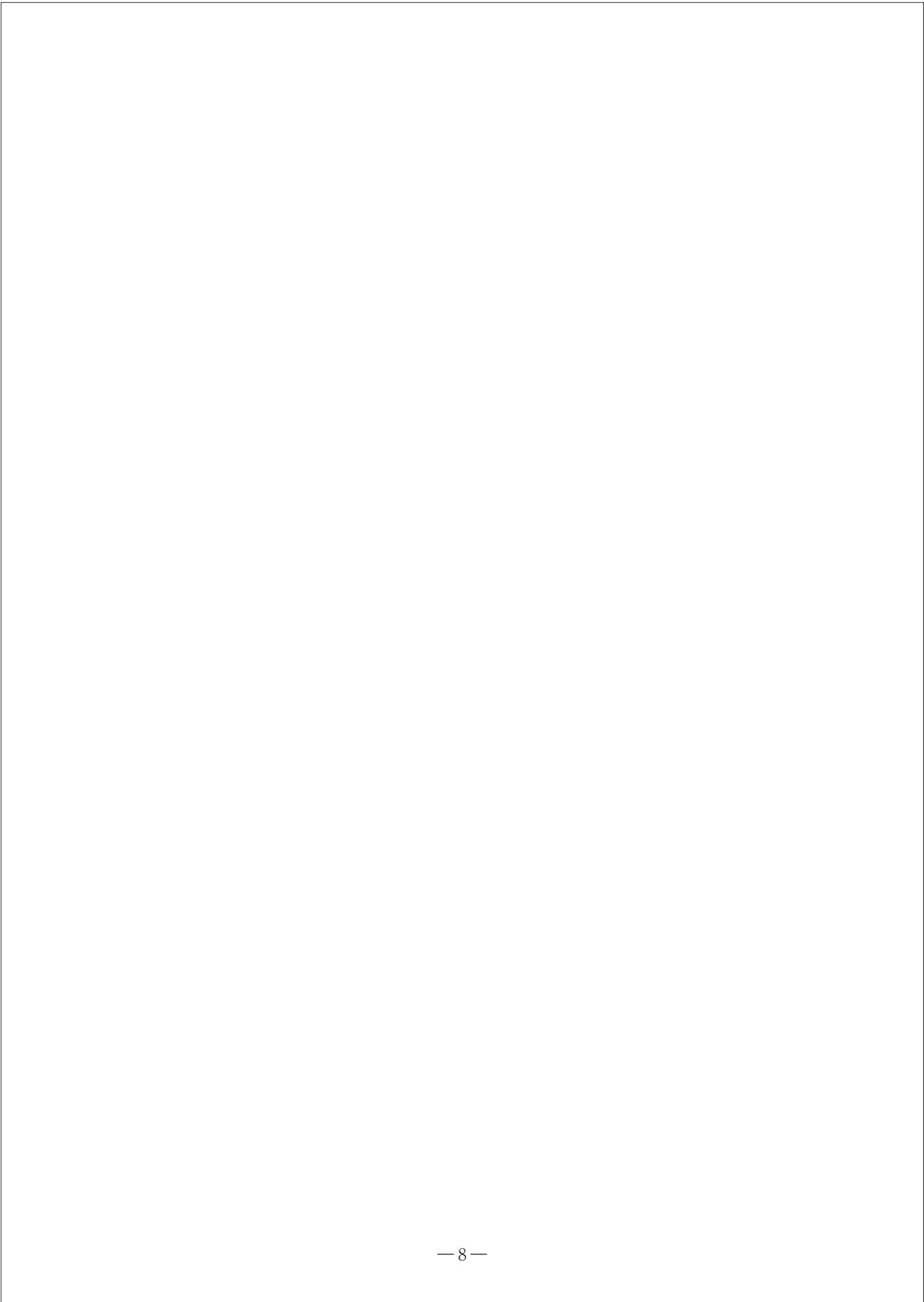
◇ **学会賞（著書）の応募状況**

4月15日に締め切られた2022年度学会賞（著書）には3件の応募がありました。会員としての会費納入条件を満たしており、また応募著書は2年以内に刊行されていることが事務局により確認されましたので、応募申請は3件とも受理されました。審査領域は、統語論1件、語用論1件、未

開発言語の研究1件です。学会賞（著書）は、1次審査と最終審査の2段階で選考され、現在、厳正に審査が行われており、最終選考結果は本年11月に開催の日本英語学会総会で報告されます。

日本英語学会2021年度会計報告

2021年度各種収支決算書(2022年4月1日現在)が監事(秋孝道氏、菊田千春氏)による監査を経て、7月3日に開催された第84回理事会で承認されました。



言語系学会連合について

1. 今年度は、日本語学会が運営を担当することになりました。運営委員、監査委員、事務局は以下の通りです。

【運営委員】(任期は2022年度) 近藤泰弘(運営委員長、日本語学会) 西口光一(運営副委員長、日本語教育学会) 大室剛志(運営委員、日本英語学会) カイト由利子(運営委員、全国語学教育学会) 北原真冬(運営委員、日本言語学会)

【監査委員】 渡辺明(日本英語学会)(学会として2021年4月1日より2年間担当) アントン ポットギター(全国語学教育学会)(学会として2022年4月1日より2年間担当)

【事務局】(任期は2022年4月1日より1年間) 野田尚史(事務局長、日本語学会) 安井寿枝(事務局委員、日本語学会) 吉田雅昭(事務局委員、日本語学会)

2. 2022年度 第1回言語系学会連合運営委員会が5月29日(日) 10:00-12:10にZoomで開催されました。(i)2022年度の運営体制について、(ii) 2021年度の活動報告・決算について、(iii) 2022年度の活動・事業計画・予算について、(iv) 意見交換会の開催場所・日時について、(v) 運営委員会メーリングリスト(ML)の運用(オブザーバー参加)について、(vi) UALSウェブサイトの更新と今後の運用について審議しました。特に(vi)に関して、今後のSNSの活用に関してワーキンググループを立ち上げ検討することになりました。日本英語学会からは、ワーキンググループに秋庭大悟広報委員長に加わっていただくことになりました。既に、ワーキンググループから答申が出され、今後は運営委員会で審議することになります。
3. 言語系学会連合第12回(2022年度)意見交換会が7月17日(日) 13:00-15:00にZoomで開催され38加盟学会のうち28学会が出席しました。(i) 共催制度募集について、(ii) 学会の開催形態について、(iii) シニア会員について、(iv) 学会誌の完全電子化について意見交換を行いました。
4. 言語系学会連合の詳細と加盟学会の活動予定等については、下記のウェブページをご覧ください。<https://uals.net>

事務局より

◇ 会員数について

「理事会より」の欄でもお伝えしたように、2022年6月10日現在の会員総数は1296名です。

◇ 会費納入のお願い

会費未納の方は、学会支援機構から送られます振込用紙で納入して下さいますようお願いいたします。2年間滞納されますと、会則第8条第4項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意下さい。

◇ 学生会員登録（継続会員）について

学生会員登録は年度ごとの登録で、自動更新ではありません。申告期間内にお申し出がない場合には、通常会員として会費請求がなされますのでご注意ください。今年度の学生（継続）会員手続きは、4月25日に締め切りました。

手続きの方法については、学会ウェブサイトをご覧ください。なお、来年度も4月1日～4月25日の間を申請期間とする予定ですが、コロナ禍のために申請期間内に学生会員を証明する書類を送付できない場合は、あらかじめ事務局宛（elsj-info@kaitakusha.co.jp）にご相談くださいますよう、お願いいたします。

◇ 学生会員登録（新規入会）について

年度途中で学生会員として新規に入会される場合には、申告期間に関わらず、いつでも学生会員として登録ができます。この措置は、新規入会者のみに認められるものですのでご注意ください。

詳しくは、学会ウェブサイトをご確認下さい。

◇ EL, JELSへの論文投稿に関するお願い

EL, JELSに論文を投稿される際には、日本英語学会ホームページに掲載されております「*English Linguistics*投稿規定」「JELS投稿規定」をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信して下さい。開拓社から送られる受領確認用の自動返信メールアドレスに送信されても受理できません。

ELに関して、編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には、メールの件名およびメール本文には「*English Linguistics*投稿規定」ページ末尾の「投稿論文のEL掲載までの手順案内」の表で指定されている情報を必ず明記して下さい。

JELSや所属機関のworking papers等に掲載された研究（の一部）を発展させてELに投稿する場合には、論文審査が公平で厳正に行えるよう、投稿者自身のこれまでの関連する研究論文の情報は必ず記載して下さい。なお、相互に匿名による

審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、三人称表現をご使用下さい。

◇ EL掲載論文の再録やレポジトリへの登録に関するお願い

ELに掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、ELに掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、事務局宛（elsj-info@kaitakusha.co.jp）にお知らせ下さい。

また、各大学で「学術情報レポジトリ」や「電子アーカイブ」にELに掲載された論文を登録することを希望される場合、事務局までお知らせ下さい。日本英語学会では、発行後2年以上経過した論文の登録をお認めしています。無断での再録・登録は著作権侵害となりますので、ご注意願います。

◇ JELS掲載論文の再録・登録に関するお願い

JELS掲載論文についても、再録および学術レポジトリや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合には、EL掲載の論文と同様に、事前に事務局までお申し出下さい（elsj-info@kaitakusha.co.jp）。

JELS掲載論文については、発行後1年を経過したものについては、申し出があれば再録や学術レポジトリなどへの掲載をお認めしています。なお、JELS 37以降に関しましては、刊行当初からオンライン上でのフリーアクセスとしましたので、再録や学術レポジトリなどへの掲載は自由でございます。

◇ EL公費購入のお願い

ご所属の大学図書館や研究室でELを購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていただきたく存じます。ELがより多くの研究者に知られるだけでなく、本学会の運営にも益するところがありますので、よろしくお願いいたします。

◇ **電子版投稿・審査体制に関連するお願い**

研究発表応募、ELへの投稿、および学会賞・新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々への連絡は電子メールで行っています。所属の異動等に伴い連絡用アドレスの変更がある場合には、学会にもお知らせいただきますようお願いいたします。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常一週間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようご協力下さい。

◇ **連絡先等変更のご連絡のお願い**

メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構にご連絡下さい。連絡方法については、学会ウェブサイトをご覧ください。

◇ **訂正とお詫び**

76号掲載の「大会運営委員会より」の欄で、大会運営委員の西口純代氏のお名前が記載されていませんでした。また、「理事会より」の欄で、「市川三喜研究助成金」と記載すべきところを「市川三喜研究助成金」と誤って記載していました。訂正し、お詫び申し上げます。

編集後記

今年5月の第15回国際春季フォーラムはオンラインでの開催となりましたが、海外からの研究発表の件数も増え、また、Leonard Talmy氏(University at Buffalo, State University of New York)の招待講演には数多くの方に参加して頂きました。これもオンライン開催の利点の一つだと考えています。今秋11月にオンラインで開催する第40回大会でも、Alec Marantz氏(New York University)の特別講演が予定されています。これ以外にも、今井むつみ氏や齋藤衛氏の特別講演、また、英語史、英語と日本語の時制、英語音韻論・形態論に関するシンポジウムが予定されています。更に、英語以外の個別言語を専門とする研究者をお招きし、英語学の立ち位置を改めて考える公開シンポジウムも行われます。幅広い分野の最先端研究に触れる絶好の機会であり、数多くの会員の方に満足して頂ける大会になるのではないかと期待しています。

過去2年間のオンラインで開催した秋季大会では、参加費を徴収せずに何とか大会運営を行ってきました。しかし、対面形式に移行する来年度以降のことを考えると、大会運営に必要な様々な経費を確実に準備する必要が出てきました。そのため、今年度の秋大会より、オンライン参加登録システムを導入し、大会参加費を頂くこととなりました。皆様のご理解を賜りますようお願いいたします。なお、オンライン参加登録の詳細については、9月中旬に学会HPに掲載予定の「オンライン参加登録について」をご覧ください。(E.S.)

2022年8月31日発行

編集・発行 日本英語学会
代表者 金子 義明
発行所 日本英語学会
<http://elsj.jp/>

〒112-0013

東京都文京区音羽1-22-16

開拓社内

電話 (03) 5395-7101
